



1st Anniversary★

道守長崎通信

第13号
平成21年11月

<http://www.qsr.mlit.go.jp/n-michi/michimori/nagasaki/index.html>

大村市で「マイ・ツリー」活動

平成21年10月18日(日)、大村市で「マイ・ツリー」活動が行われました。「マイ・ツリー」活動とは、道路の街路樹を守り育てるために、自分の木を持ち、その木を大切に育てることで、花や緑の大切さと道路美化への理解を深める活動です。

大村市では、市民に街路樹に関心を持って頂き、緑豊かな美しいまちづくりを進めるために、道守が中心となって「マイ・ツリー」活動を実施しています。

この日は、大村市民ら40名が集まり、間伐材で作った板にそれぞれの名前やメッセージ等を書いたプレートを作成しました。そして樹木医の先生に「街路樹としてのサクラの管理方法」について講演して頂きました。参加者の皆さんは、大変興味深く講演に聴き入っておられました。

その後、街路樹周辺のゴミ拾いや草むしりを行い、作成したプレートを街路樹に設置しました。大量のゴミや草が回収され、「マイ・ツリー」活動実施地区はとて美しくなりました。また、皆さんが作成したプレートと街の景観もとてもよく合っており、大変満足していらっしゃいました。参加者の皆さんからは、「まちが美しくなり、とても気持ちが良い」という声があがり、道路美化や景観への関心が高まったようでした。



【どんなデザインにしようかな…?】



【個性溢れるプレートが完成しました】



【樹木医の松田先生による講演】



【「マイ・ツリー」周辺の清掃活動後、プレートを設置。とてもキレイになり、プレートも街の景観とマッチしています。】



【素敵な「マイ・ツリー」になりました】

参加した皆さんで記念撮影★
皆さん、お疲れ様でした。



県内各地で「通り名」が広がっています！

◆諫早地区「通り名を活かしたまちづくり」会議 第2弾

昨年度、諫早市中心市街地では、①わかりやすい道案内、②地域の観光振興、③地域への愛着を深めることを目的に「通り名」プロジェクトを実施し、自治会長さんのご協力のもと、24の通りに名前を付け、89箇所に標識板を設置し、「通り名」を記載したマップを作成しました。今年度は、「通り名」を地域住民に定着させ、「通り名」を活かしたまちづくりを進めていくことが課題です。



【諫早史談会の山口先生(写真右)のご指導のもと、再度「通り名」の由来を勉強しました】

そこで、第2回目の「通り名を活かしたまちづくり」会議を、10月6日に開催しました。今回の会議では、「通り名」の由来やまちの歴史をおさらいし、今後の取り組みについて話し合いました。参加者からは、「ウォークラリーを行い、楽しみながら『通り名』に親しんでもらおう」とか「『通り名』を活かしたストーリーをつくって、人々が回遊できるようなしくみをつくらう」などの意見が挙がりました。次回の会議では、具体的なイベントやその時期など詳細を話し合う予定です。

◆西海市雪浦で「通り名」始動!!!

今年度、西海市雪浦地区で、“観光客への道案内”と“地域の歴史の発掘”を目的とした「通り名」プロジェクトを実施することになりました。

雪浦地区は豊かな自然と美しい風景に囲まれ、夕日や教会、橋をテーマにした風景街道「ながさきサンセット・オーシャンロード」が走っており、地域の皆さんは美しい雪浦をPRすべく、「雪浦ウィーク」という催しをはじめ、様々な活動に取り組んでいる地域でもあります。



【ワークショップの様子】

毎年GWに開催される「雪浦ウィーク」は、来年12回目を迎えます。「雪浦ウィーク」とは、雪浦をこよなく愛し、ここに暮らし、またここで活動する人々によって行われます。海山川にめぐまれた自然豊かな雪浦を多くの人々に紹介し、雪浦での暮らし、生産、創作、趣味の場を開放することによって、訪れる側、迎える側、双方がともに楽しむ、顔の見える交流をする催しです。この地域回遊型イベント「雪浦ウィーク」は、長崎さるく博のお手本になったとも言われており、観光客も年々増えています。

10月1日に第1回「通り名」ワークショップを行い、「良い取り組みなので、地域全体で盛り上げていきたい」という意見が挙げられ、自治会長さんから地域の方への周知を図って頂くことになりました。10月21日の第2回「通り名」ワークショップでは、16の通りに名前を付けました。また、標識板については「陶板が雪浦らしくていいのではないか」という意見が挙がり、次回、大きさや枚数、設置箇所について話し合っていくことになりました。

◆佐世保の商店街を中心に「通り名」を進めています

日本一元気な商店街として全国的にも有名な佐世保市の商店街でも、9月から「通り名」プロジェクトが始まっています。佐世保では、三ヶ町商店街振興組合を中心に観光客や外国人が街を楽しめるように情報提供する「アメリカ in SASEBO (佐世保の中のアメリカ)」という取り組みを行っており、その一環として「通り名」を実施しています。

自治会長さんや商店街、学生、観光協会、商工会、史談会、行政等多様なメンバーが集まり、これまでに3回の「通り名」ワークショップを行い、8本の通りに名前がつけました。アーケードは、市民に親しまれている「さるくシティ403 (ヨソマルサン)」と名付けました。「403」の由来は、商店街を構成する四ヶ町商店街、玉屋、三ヶ町商店街の頭文字をとってあるそうです。また、アーケードは米軍基地からの来訪も多いため、米軍関係者に親しみやすいように、米軍内でのアーケードの通称である「GINZA」を採用し、英語表記は「Sasebo Ginza Street」とすることが決まりました。この他にも、「セーラー通り」や「アルバカーキ通り」等、港や米軍の雰囲気を表した佐世保らしい通り名が決まりました。今後は、標識板のデザインやマップについてもワークショップ形式で話し合いを進め、今年中の完成を目指します。



「みちづくし in みやざき 2009」

平成21年10月23～24日にかけて、宮崎市青島で「みちづくし in みやざき2009」が開催されました。長崎からは総勢36名で参加し、道守長崎会議の存在感を大いにアピールして参りました。

今回のみちづくしのテーマは、「あなたと私でつなぐ道～新たな公ってなんね？～」です。1日目は、このテーマで宮崎大学工学部の吉武准教授、教育文化学部の根岸准教授、道守みやざき会議の矢野世話人による基調対談や、各県代表者からの活動事例発表が行われました。長崎からは牧圭子副代表世話人が「街道づくりへの挑戦～長崎街道を活かした街づくり～」という題で発表されました。「地域住民、行政、大学の官・民・学がそれぞれの得意分野を担いながら三位一体となって、協働の精神で連携を図る。このネットワークの拡がり『新たな公』に繋がっていく。官・民・学が対等な立場で意見交換ができるよう、NPO 道守長崎が中心となって共通言語を創出し、道をつくり、街をつくり、人を育てる『新たな公』を目指していく。」という、とても力強い発表をして頂きました。道守を支援するためのNPOの設立は長崎が九州で初めてで、他県の道守の皆さんも大変興味深く耳を傾けており、今後の道守長崎会議への期待が感じられました。

2日目はみちづくしの記念に、青島の花“ブーゲンビリア”を植樹しました。その後、青島周辺のまち歩きを体験しました。名の知れた観光名所だけでなく、路地裏の地元の人しか知らないような場所も風情があってとても面白かったです。宮崎での体験を参考にして、長崎でも我々道守が中心となって、地元情報をどんどん発信していきましょう！



【基調対談のようす】 【発表する牧副代表世話人】 【交流会では、歌ったり踊ったり…長崎を大いにPRしてきました！】

ながさき見守りたいプロジェクト

道守が中心となって地域を元気にする事業「ながさき見守りたいプロジェクト」の東長崎地区調整会議が、平成21年9月25日に開催されました。

東長崎地区は、江戸時代に鎖国政策下の日本で、唯一外国との交易を行っていた出島に通ずる『長崎街道』が通っていた地域です。九州諸大名の「参勤交代」やオランダ商館長が将軍に謁見する「江戸参府」のルートとして重要な役割を果たしました。また、吉田松陰・坂本龍馬といった幕末の志士や、ゾウ・ラクダ等異国の珍獣も通った街道です。さらに、輸入品の砂糖を運んだことで九州各地の食文化に大きな影響を与え、現在は『シュガー・ロード』と命名して九州各地で様々な取り組みがなされています。

このように、多くの歴史的・観光資源を持ちながら、地元の人でもどこが長崎街道なのか知らないというのが現状で、うまく活用できていません。また、15年くらい前から土地開発で茶屋跡等、当時の面影を残すところなくなっているそうです。

今回のプロジェクトでは、「歩きたくなるような長崎街道、歩いて楽しい長崎街道」づくりを実施していきます。ワークショップでは、具体的に次の4つの取り組みを進めていくことが決定しました。

- (1) 長崎街道マップづくり
- (2) 松並木の復元や風情のある案内板設置などの景観整備
- (3) ばんこ(休憩用の長椅子)づくり
- (4) 価値ある土木構造物や近代化遺産を巡る「土木さるく」の開催

以上の取り組みを、道守や地域の方が主体となって進めていきます。



【調整会議のようす】

風景街道

「ながさきサンセット・オーシャンロード」より

◆平戸市で「パーク・アンド・エコ・ライド」

風景街道「ながさきサンセット・オーシャンロード」推進協議会は、平成21年10月20日(火)から12月19日(土)までの2ヶ月間、平戸市で「パーク・アンド・エコ・ライド」社会実験を行っています。

この「パーク・アンド・エコ・ライド」とは、観光客などに観光地内での移動を支援するとともに、観光時の環境負荷の低減などを図ることを目的とするもので、市中心部は電動アシスト自転車によるまち歩き「自転車さるく」を、郊外部においては環境に優しいエコカーによるまち歩き「エコカーさるく」の構築を目指すものです。

今回の取り組みでは、平戸市内にある交流広場や観光協会、駅、ホテルなどに電動アシスト自転車を配備するとともに、平戸観光協会にハイブリットカーのレンタカーを配備しております。本取り組みでは、観光客などにモニターとして参加していただき、アンケート調査を中心に問題点や課題を把握し、今後の本格運用に向けて調査を行っています。

是非、皆さんも平戸市にお越しの際は、「自転車さるく」と「エコカーさるく」をお試し下さい。

「自転車さるく」や「エコカーさるく」参加者には、ご利用後に簡単なアンケートに答えていただくだけで、無料で電動アシスト自転車やエコカーがご利用できます。詳しくは、平戸観光協会ホームページで！！
<http://www.hirado-net.com/>



【エコカーを体験してみませんか?】 【電動アシスト自転車で坂道も楽々!】



◆各地で地域連絡会議を開催

8月から10月にかけて、長崎、西海、平戸・松浦、佐世保の4地区で風景街道「ながさきサンセット・オーシャンロード」地域連絡会議を開催しました。

会議では、はじめに昨年度の活動報告がありました。昨年度は、各地区の魅力発見バス・ツアーや大分の「九州横断の道やまなみハイウェイ」との交流、外海や平戸での「通り名」の実施、角力灘への美しいサンセットが堪能できるよう西海市雪浦にポケットパークを設置するなど、少しずつではありますが着実に「ながさきサンセット・オーシャンロード」での活動が進んでいることが確認できました。

その後、座談会形式で各地域で眺めの良い場所や改善点等を挙げていきました。「地元の人にしか知られていないが、ここからの眺めは最高」とか「CMや映画の撮影に使用されている場所なので、もっとPRしよう」とか「簡易パーキングを整備したら、ゆっくりと景色を楽しめる」等の意見が出されました。会議で出されたご意見は、「ながさきサンセット・オーシャンロード」のホームページで紹介したり、マップの更新に繋ぎさせたりしていきます。

また、この他にも多かったですご意見として、ルートが南北に長くて遠いため、メンバー間のネットワークがうまく機能していないという課題も挙がりました。今後は、ルートを通して交流しながらネットワークの構築に努めて参ります。



お問い合わせ
情報送付先

【道守長崎会議広報担当】国土交通省 九州地方整備局 長崎河川国道事務所 調査第二課 沼野・浦田
住所：〒851-0121 長崎市宿町 316 番地 1
TEL：095-839-9861 FAX：095-839-9648 E-mail：numano-t8910@qsr.mlit.go.jp